



JR EAST
TRANSPORT
SERVICE WORKER'S
UNION

JR東日本輸送サービス労働組合

所在地：〒135-0044
東京都江東区越中島 3-5-10
電話：03-6458-5603
FAX：03-6458-5605

メール：union@jtsu-e.com
H P：https://jtsu-e.com
発行人：佐々木 宏 充
編集人：坂 元 隆 史

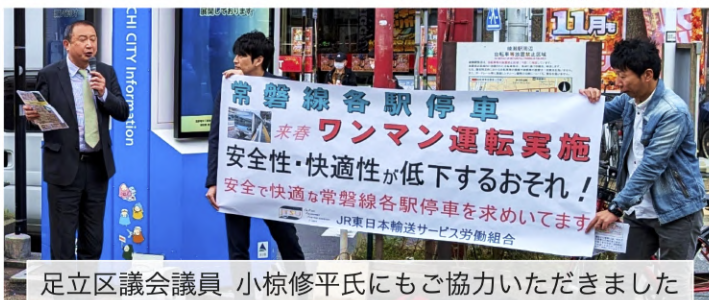


第4号



◆ 地域に根差した鉄道を創り出すために
職業体験へ講師として参加

2025年春の実施！ 目前に迫った「常磐線各駅停車ワンマン運転開始」を 地域・利用者に訴える！



足立区議会議員 小椋修平氏にもご協力いただきました

常磐線各駅停車に乗務する「綾瀬運輸区分会」の仲間が中心となり、綾瀬駅をはじめとした常磐線の各駅でピラ配布行動を実施しました。地域や利用者の方々へ「安全性・快適性が低下するおそれ」とその根拠となる現状を訴え、声を集めました。配布枚数は4日間で2,000枚を超え、関心の高さが窺えます。

街頭では「普段利用している路線がワンマンになるなんてはじめて知った」「駅員もいない中ワンマンになるのは困る」など、一方的にワンマン運転実施に向かっていくことへの多くの不安の声が寄せられました。

【輸送サービス労組未来ビジョン】地域に根差した鉄道を創り出すために

職業体験へ講師として参加



▼「鉄道業」職業体験業務

▲ 11月4日【小学生キャリア学習プログラム 北区で職業体験】での様子

業務	授業内容
駅員	切符の精算体験
車掌	車内放送体験、旗を使った入換合図体験
運転士	鉄道信号の種類講座、鉄道模型運転体験
メンテナンス(車両検修)	車両検修クイズ、ハンマーでの打音検査体験

【ご紹介】

「一般財団法人 SHOIN」さんは、東京都北区でこども食堂やフードパントリーなどを運営しており、私たち輸送サービス労組もお手伝いをさせて頂いています。

「地域に根差した鉄道」をめざしていきます。

改めて、鉄道業は子供たちの憧れの職業であることに実感でき、これからも地域や子供たちに愛される

「地域に根差した鉄道」をめざしていきます。

体験では「法律家」や「デザイン印刷業」など、地元北区で活躍する12の職業が結集しました。私たちは「鉄道業」を担当し、4つの業務(表参照)について、クイズ形式や五感を使った体験を通じ子供たちに鉄道の魅力、鉄道の仕事を体感してもらいました。

講師は、それぞれの業務に普段就いているプロフェッショナルな仲間達(駅員、運転士、車掌、設備メンテナンス、車両検修)が担い、クイズ形式や実技など、普段は経験できない内容で、子供たちだけで無く保護者の皆さんも大いに盛り上がりました。

参加した子供たちや保護者の方々から「色々体験できておもしろかった」「ハンマーでたたいて音の違いがわかるのがすごい」などの感想が寄せられました。

11月4日、社会福祉法人社会福祉協議会と一般財団法人SHOIN※の共催で開催された「小学生キャリア学習プログラム 北区で職業体験」に、同じ東京都北区に拠点を置く東京地方本部の仲間が昨年引き続き講師として参加をしました。

体験では「法律家」や「デザイン印刷業」など、地元北区で活躍する12の職業が結集しました。私たちは「鉄道業」を担当し、4つの業務(表参照)について、クイズ形式や五感を使った体験を通じ子供たちに鉄道の魅力、鉄道の仕事を体感してもらいました。

講師は、それぞれの業務に普段就いているプロフェッショナルな仲間達(駅員、運転士、車掌、設備メンテナンス、車両検修)が担い、クイズ形式や実技など、普段は経験できない内容で、子供たちだけで無く保護者の皆さんも大いに盛り上がりました。

TOPIC

南武線現地踏査を実施!

利用者と私たちの命を守るために、取り組みを通じ様々な視点での議論を創出します



ワンマン運転化が2025年3月に予定されている南武線の鹿島田・向河原間を、南武線を担当する横浜地方本部の仲間たちで防災の視点から11月23日に現地踏査を行いました。

南武線は、朝夕の通勤時間帯に遮断時間が長い、いわゆる「開かずの踏切」が多数ある上、線路外への避難が可能な非常口が少ないことから、災害発生時の避難誘導は困難を極めることが容易に想像できます。



昨今、自然災害は激甚化・頻発化しており、想定外を想像した安全の先取りが必要不可欠です。しかし、ワンマン運転化により、災害時の対応はすべて運転士が1人で行うこととなります。果たして混雑率の高い路線でのワンマン運転化は、乗客・乗務員の命・安全を守ることができるのでしょうか。

編集後記

JR東日本は「『人ならではの仕事』へシフトしていく」としながらも、みどりの窓口の廃止やワンマン運転化計画を推し進めてきました。その結果、JR東日本の社員・従業員は、利用者と直接接する機会が減少しています。輸送サービス労組は、現地・現物・現人の考え方のもとに現地へ赴き、現物を見て・聞いて・感じて、現人である地域や利用者のみなさんとの直接の“ふれあい”を通じて、地域に根差した鉄道の実現をめざしていきます。